



山端 博 (市民連合クラブ)

循環バス等の

本格運行への取り組みは

アンケートをもとに検討を進める

議員 高齢者の交通体系は自家用車から公共交通へと変わりつつある。実証運行中の市街地循環バス等は、今後さらに必要なものになっていくと考えるが、利用状況は。

企画財政部長

7月6日の実証運行開始から8月23日までの間で、市街地循環バスは延べ752人(1日当たり約16人)、十和田湖支所シャトルバスは延べ202人(1日当たり約4人)です。

議員

本格運行の実施にどのようなつながりがあるのか。

企画財政部長

バス車内でアンケートを実施していますが、約93%の方が「また利用したい」と答えています。また、運行経路、運行時間、停留所等についてもさまざまなご意見をいただいています。



市街地循環バスの利用促進を

議員 利用者数がやや少ないと感じるが、周知が課題と考える。注目を集めて知名度を上げるため、本格運行実施の際に運賃無料期間を導入する考えは。

企画財政部長

現在も低運賃で運行しているため導入は考えていませんが、利用者促進の取り組みは

議員

路線バスの代替手段である大下内・八斗沢地区の「おとたく」、深持地区の「ふかたく」、切田地区の「きりたく」の予約制乗合タクシーの利用状況は。

企画財政部長

「おとたく」は、平成29年度は899人で、平成25年度から663人減少しています。「ふかたく」は、平成29年度は1283人で、平成25年度から399人減少しています。全体で、延べ1024人減少しています。

広域コミュニティづくりを進めよ 市全域での設立に向け 地域の意識醸成等を図る



堰野端 展雄 (自民公明クラブ)

議員

人口減少が及ぼす影響への対策として、地域運営組織が注目されている。これは、住民みずからできることはみずから行うという考えのもと、地域が抱える課題を共有し、解決策を協議するとともに、その協議、決定を踏まえて活動を行うものである。これと同様のものが当市の広域コミュニティであると考え、取り組み状況と今

後の方針は。

民生部長

現在、3つの広域コミュニティ組織が設立されていますが、今後は市全域を対象に、概ね小学校区単位での広域コミュニティづくりに取り組んでほしいと考えています。そのため、勉強会等を開催して意識醸成を図るほか、組織化に向けた地域での会議の支援等を行います。また、事務局機能やコミュニティ活動に財政支援していきたいと考えています。

議員

福祉関係の部署でも広域コミュニティと同様の考えで行っている事業がある。横断的な取り組みをする考えは。

民生部長

広域コミュニティは多種多様な課題を解決する組織として期待されることから、制度や分野を超え、横断的に対応したいと考えています。

議員

町内会との組織体制をどう考えているのか。

民生部長

コミュニティ活動の基本は単位町内会

と考えますが、単位町内会で対応できない課題については、関係団体等で構成された組織が一体となって広域コミュニティ活動に取り組む体制を考えています。



みんなが地域の課題解決を

議員

今年度の報酬改定により、放課後等デイサービスの各事業所において、利用者のうち障がいの子が半分以上を占めるかどうかで報酬が線引きされることになった。しかし、子どもの状態を見ずに障がい程度を判定した自治体があり、国が各自治体に再判定を依頼している。当市では適切に行われているか。

健康福祉部長

国の指標に基づき、適正な判定を行っており、再判定が必要な事例はありません。